

1

鹿沼市の「教育」 ～鹿沼市の目指す教育とは～



第8次鹿沼市総合計画

「花と緑と清流のまち 笑顔あふれるやさしいまち」

■まちづくりの原点である『ひとづくり』が教育の役割



第2次鹿沼市教育ビジョン

基本理念「**学びから 未来を拓く ひとづくり**」

■これからの教育に求められるもの

- ① 正解のない問題に対する納得解
- ② 多様な他者との協働
- ③ 幸せな人生の創造



これからの時代に必要な「チカラ」

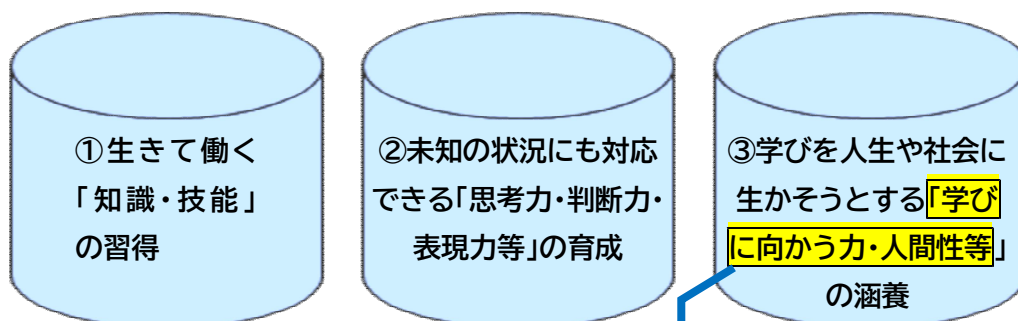
どこかに正しい決められた答えがあって、それを探せばいい、ということではなく、決められた正解のない問題に対して、自分の頭で考えて判断し、**いろいろな考えをもった人たち、自分とは違う考えの人たちとも協働して、多くの人が納得**できるような「**納得解**」「**最適解**」を見だし、**合意形成をはかり**、自分を大切にする心、他者とつながろうとする心を育み、幸せな人生を築き上げていく「チカラ」

この「チカラ」を、学校教育を通して育成していく



学習指導要領

■育成を目指す資質・能力「三つの柱」



* 自己肯定感や自尊感情、困難を乗り越え成長し遂げる力、互いのよさを生かして他人と協働する態度、優しさや思いやりなどを育成することに、特に力を入れて取り組んでいく

2

学校再編の目的 ～なぜ学校再編が必要なのか～



教育基本法 「義務教育の目的」

第五条第2項 「各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うこと」



文部科学省 「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」より

■義務教育における学校の役割

- ① 教科の知識や技能の習得
- ② 児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認めあい、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付ける

そのためには

- ✓ 一定の規模の児童生徒集団が確保されていること
 - ✓ 経験年数、専門性、男女比等のバランスの取れた教職員集団が配置されていること
- 一定の学校規模を確保することが重要

現代の子どもたちが生きている社会

- 家庭・地域の社会性育成機能の低下
少子化・兄弟姉妹の減少、学校の小規模化
屋内の1人時間の増加、集団遊びの減少、
子ども同士の関わり自体が減少
共働き世帯・ひとり親家庭の増加、
核家族化、三世帯同居の減少、
地域コミュニティの縮小

→これを解決するには

- ✓ 家庭や地域の大切な役割には替えられないが、学校の中で多様な考えに触れ、認めあい、協力し合い、切磋琢磨すること

将来の子どもたちが生きる社会

- グローバル化、情報化、技術革新の進展
- 将来の変化を予測することが困難な時代
- 仕事の自動化が広がる？
今は存在しない職業に就く可能性？
人工知能の発達が人類を超える？
- 社会課題を解決し、持続可能な社会を創る
個人・家庭とともに地域や社会が幸せや豊かさを感じる価値を創造する

→そのために必要な「チカラ」は

- ✓ 正解のない問題に対する納得解
- ✓ 多様な他者との協働
- ✓ 幸せな人生の創造

鹿沼市の目指す「教育」のためには、一定の学校規模を確保することが重要

その具体策として、小中学校の再編(適正規模・適正配置)が必要

「学校再編の目的」は、児童生徒を第一に考え、

教育環境の充実により教育の質の向上を実現すること

3

小規模校のメリットとデメリットについて

「鹿沼市小中学校適正配置等基本計画」より抜粋

	小規模校のメリット・デメリット
メリット	○ 教育的な配慮を要する児童生徒を含め、一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が可能になる。 ○ 意見や感想を発表できる機会が多くなるほか、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。 ○ 様々な活動においてリーダーを務める機会が多くなる。 ○ 余裕をもって施設を使えるほか、教材・教具が行き渡りやすい。 ○ 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすく、家庭的な温かい雰囲気の中で効果的な指導ができる。
デメリット	● 集団の中で多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなり、一部の子どもにクラス全体が影響を受けやすい。 ● グループ学習や習熟度別学習など、多様な学習形態がとりにくい。 ● 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じる。 ● 委員会活動やクラブ活動、部活動等の選択肢が限定されてしまう。 ● クラス替えが困難なため、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ● 集団内の男女比に偏りが生じやすくなる可能性がある。 ● 教員と児童生徒との心理的距離が近くなりすぎる。 ● 教職員数が少なくなり、一人に複数の校務分掌が集中しやすくなるほか、出張・研修等の調整が難しくなる。 ● PTA活動等における保護者一人あたりの負担が大きくなる。

4

小規模校の保護者等の意見～アンケート結果～

「学校再編はどうしていくことが望ましいか」について、

小学校の小規模校では約 75%、

中学校の小規模校では約 72%の方が、学校再編を進めることが望ましいと考えています。

その理由として、主に以下の内容を挙げています。

- ①「人間関係の構築・形成(クラス替えができる、社会性が育まれる)」
- ②「多様な学習活動(小学校)・部活動(中学校)・学校行事の拡充(集団活動などの教育的効果)」
- ③「学習環境の改善(自己の学力の比較が可能、多様な指導形態などの改善)」



適正規模化により見込まれる効果～過去の事例～

「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」文部科学省より抜粋

児童生徒への効果	① 良い意味での競い合いが生まれた、向上心が高まった ② 以前よりもたかましくなった、教師に対する依存心が減った ③ 社会性やコミュニケーション能力が高まった ④ 切磋琢磨する環境の中で学力や学習意欲が向上した ⑤ 友人が増えた、男女比の偏りが少なくなった ⑥ 多様な意見に触れる機会が増えた ⑦ 異年齢交流が増えた、集団遊びが成立するようになった、休憩時間や放課後での外遊びが増えた ⑧ 学校が楽しいと答える子供が増えた ⑨ 進学に伴うギャップが緩和された ⑩ 多様な進路が意識されるようになった
学校における効果	① 複式学級が解消された ② クラス替えが可能になった ③ より多くの教職員が多面的な観点で指導できるようになった ④ 校内研修が活性化し、教職員間で協力して指導にあたる意識や互いの良さを取り入れる意識が高まった ⑤ グループ学習や班活動が活性化し、授業で多様な意見を引き出せるようになった ⑥ 音楽、体育等における集団で行う教育活動、運動会や学芸会、クラブ活動、部活動などが充実した ⑦ 少人数指導や習熟度別指導などの多様な指導形態が可能になった ⑧ 一定の児童生徒数の確保により、特別支援学級が開設できた、特別支援教育の活動が充実した ⑨ バランスの取れた教員配置が可能となった、免許外指導が解消又は減少した ⑩ 施設設備が改善され教育活動が展開しやすくなった、教材教具が量的に充実した ⑪ 校務の効率化が進んだ、教育予算の効果的活用が進んだ ⑫ 保護者同士の交流関係が広がった、PTA活動が活性化し、学校と地域との連携協働関係が強化された